

港北区災害ボランティア連絡会ニュース

事務局 〒222-0032 横浜市港北区大豆戸 13-1 吉田ビル 206 港北区社会福祉協議会

第 62 号

TEL 045-547-2324 FAX045-531-9561

2018年2月

HP <http://kohoku-saibora.jimdo.com/>

* 入会は随時受け付けています。あなたの町の防災度を高めるためにお力を貸してください



1.17 と 3.11 の間

— 大切なものを守るために —

先日石巻市で、東日本大震災で身元不明だった方が日和幼稚園の職員だったことが警察の調査で判明しました。

2017年12月8日現在で直接死は15,894名、行方不明者2,546名、現在も避難生活を強いられている方々77,436名もいます。そして震災関連死3,647名にも上ります。この震災関連死のうち福島県が2,202名の多数を占めています。すでに7年近く経つのに未だ行方不明者の発見や、身元不明者の解明の努力が続けられている事実には肅然とさせられます。

石巻市旧大川小学校では「大川伝承の会」が、校庭内に在りし日の大川小の姿や、被災当時の様子の写真を展示しています。児童108名中74名が死亡や行方不明となり、未だその真相解明が不透明なままでは、死者も生者も納得できないでしょう。先生方も多数犠牲になりましたが、その後のいきさつから考えると、校庭入口に建てられた慰霊碑の銘文の最初に先生方が載っているのはちょっと違うのではないかと思います。学校では児童、生徒の生命を守るべきは先生方です。同じ原因で、同じ場所で亡くなっていますが、まず悼まれるべきは児童、生徒ではないかと思いました。

災害はこのような理不尽な死をたくさん生みます。私たち災害ボランティアの活動する意味はそのような悲劇を生まないためです。そして震災関連死といった、せっかく助かった命が避難生活によって奪われることのないように、全力でボランティア活動を支えることです。

来月は今年度活動の総括をする時期となりました。次年度の活動を充実したものにすることも今年度の反省をしっかりと行って行きたいと思えます。(宇田川)



左 校庭内にある、「大川小学校と『数字』」
右 校庭入り口に建てられた慰霊碑
表題のあるパネル



「平常時から困難を抱えている人は災害時により困る」 を解決する地域の力！

連載 その4

「港北医療従事者無線クラブ」

災害時は通信網が破綻し、情報伝達に大きな問題が生じます。東日本大震災の際に港北区は被災地ではないのに、固定電話はもとより携帯電話、メールも使うことが出来なくなりました。

港北区では、大規模災害発災時に、医院や薬局は、それぞれの業務を継続して行うように努めます。また、医療救護隊を編成して地域防災拠点の巡回診療を行います。これらが、組織立って活動するためには、通信手段が必要です。現在衛星携帯電話、MCA無線など通信手段の複々線化を実施しています。しかし、これら通信手段にも欠点があり、災害時に活用できない可能性があります。そこで、新たな通信手段としてアマチュア無線を加えることにしました。アマチュア無線は携帯電話やMCA無線のように中継局を必要としないので確実性が高い通信手段です。

2016年4月23日に港北区の医療従事者10名が集まり、港北医療従事者無線クラブを設立し、通信技術を習得するための座学や訓練を実施してきました。また免許取得のための講習会を開き、現在クラブの会員は23名(全員免許所有者)にまで増えました。

港北区医療従事者無線クラブ会長 医療法人 向日葵会日横クリニック院長 鈴木悦郎



被災経験から生まれた実用的避難バック

2015年9月に大水害に襲われた常総市で活動続けるJUNTOSは、その体験から「発災からの数日間のために」と銘打った防災バックを開発し販売しています。特に

1. リュックが水に浮く……ライフジャケットの代わりになる
2. 避難前、避難中、帰宅後にすることがわかる「豪雨災害に備えるガイドブック」つき
3. 水害の体験から、**本当に役に立ったものや欲しかったもの**を揃えた点が貴重です。

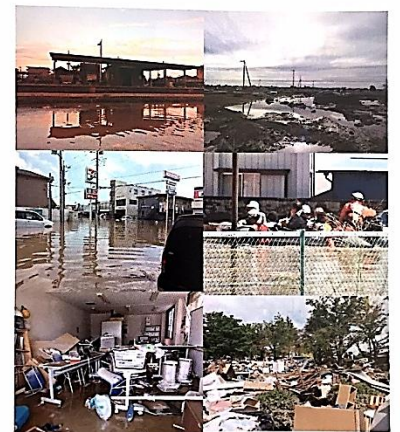
しかも製作を障害者施設に依頼し、売り上げの10%は九州北部豪雨支援に使うなど、多面的なつながりの塊です。連載中の「我が家の防災」でもそれぞれの備えが語られていますが、この一覧は自宅の備えを充実させるのに役立ちます。

また「豪雨災害に備えるガイドブック」は災害発生時、避難生活、生活再建と続く長く辛い時期それぞれの状況や対応、そしてそこから伝えるべき教訓が書かれた貴重なものです。常総市では東日本大震災では震度6弱を記録し、亡くなった方もいます。特に水害と違う西側の地域がライフラインの被害はひどかったそうです。その経験からの備えと床上まで水につかる水害での違いも書かれています。

最近横浜市の地域防災拠点訓練で強調されるのが在宅避難ですが、避難所避難、在宅避難それぞれの利点欠点と、自主防災組織が事前に立てるべき2つの目標が書かれておりこれは役に立ちます。このガイドブックは拠点運営委員会の学習資料にもなると思います。

豪雨災害に備えるガイドブック

災害発生時、避難生活、生活再建
常総市の被災者の取り組みから



たすけあいセンター「JUNTOS」
認定NPO法人 茨城NPOセンター・コムズ

身近にある AED は、本当に利用できるのか

～現地調査から浮き上がった実態～

ボーイスカウトの提案を受けて、連絡会メンバーも参加して仲手原地区の AED 調査をしました。

日本は AED 大国ですが、一分一秒が生命を左右するにもかかわらず、実際に市民が使うケースは残念ながら多くありません。今回の提案は使い勝手を確認するとともに、港北区民でも他地区はなかなか歩かないことから、いろいろな地区を歩くことで土地勘をつけるという災ボラに撮っては役に立つ共同行動でした。

ボーイスカウト横浜第 8 団のスカウトと、現在設置されている AED（日本全国 AED マップに掲載されているもの）について、その実情を調査しました。ボーイスカウト横浜第 8 団のビーバー隊・カブ隊・ボーイ隊のスカウトが、地図を参照し設置場所を訪問し、その実態を調査したものです。災ボラのメンバーはカブ隊のスカウトいっしょに調査を行いました。結果は以下のとおりです。

調査日 平成 30 年 1 月 21 日 9 時 30 分～12 時

調査範囲 港北区仲手原、篠原町、篠原東、篠原北、錦ヶ丘、菊名 1～7 丁目、富士塚

調査対象数 54 ヶ所

実調査数 48 ヶ所

◎AED 設置場所の掲示が見つかった所 28 ヶ所

内 調査時点で AED 使用が可能だった所 16 ヶ所

内 早朝深夜の使用可能な AED 設置場所 5 ヶ所

◎AED 設置場所の掲示が見あたらなかった所 20 ヶ所

内 調査時点で AED 使用が可能だった所 9 ヶ所

内 早朝深夜の使用可能な AED 設置場所 1 ヶ所

日本全国 AED マップには、調査範囲に 54 ヶ所もの AED が掲載されていますが、およそ半数の 20 ヶ所では「AED 設置場所」の掲示が見当たらず、「しらなければ使えない」状況であることが判明しました。また、持ち出しに特段の制約がないところは 12 ヶ所のみで、AED 設置場所の方の支援や許可が必要なところがほとんどでした。

そのため、調査を行なった日曜日の午前中については、学校や医院などは「時間外」のため利用できる状態にないことがわかりました。当然、早朝・深夜に利用できる AED はもっと極めて限られており、早朝・深夜における救急体制には課題があることが明らかになりました。

今回は初めての試みのため、ボーイスカウト・災ボラ双方に不慣れな点もあり、十分な調査とは言えない部分もありますが、「本当に緊急時につかえる AED はどこにあるのか」ということを明確にすべきではないか、という課題は明らかにできた有意義な試みであったと考えます。
(中島一郎)

妙蓮寺駅周辺の AED 設置状況を調べるカブスカウト(小 3～5)に同行しました。

個人病院や幼稚園、銀行などに AED があっても営業時間内でないと使えないという問題点が浮かび上がり、ネットに掲載されている設置場所が必ずしも誰でもが使える状態でないことがわかりました。調査した地域で唯一、無人の小さな交番が使える状態でした。

使うことがないことを願っていますが、「万が一、なにかあったら交番！」と思っただけいいのでしょうか。とても参考になりました。

調査が終了して集合場所に戻ると、ボーイスカウトではスカウトのご家族も一緒に餅つきが行われて、美味しいつきたてのお餅を戴きました。それに加えて、スカウトのエネルギーまでもらって楽しい活動でした。久しぶりに 1 万歩以上歩きました。鶴見区の私の家の周りでも機会があれば調べてみようと思います。
(小原)

山中さんちの防災

「山中さんちの防災」と言われてなかなかこれ！というものが無いな…と反省。今少しだけやっていることをご紹介しますと思います。現在、相鉄線・三ツ境駅から東急線菊名駅まで、電車通勤をしています。いつ帰宅難民になるかもわからない状況です。東日本大震災の日、主人は横浜から自宅まで約4時間歩いて帰宅をしたとの事。多分、港北区から自宅までも同じような時間がかかると思っています。そこで、YMCAのロッカーの中には必ず「運動靴」「懐中電灯」「携帯充電器」を忍ばせています。また、帰宅ルートに関しても確認をしています。一度は実際に歩いてみないと…と思っはいますが、なかなか実行できていないのが現状です。

家族の中では情報の共有をすべく「災害用伝言サービス」と「Google パーソファインダー」の共有をしています。Google パーソファインダーで「人を探している」機能により Google に送信した情報は、同時に「J-anpi 安否情報まとめて検索」(「J-anpi」)にも送信されます。登録をしておけばすぐに相手の情報が分かります。家族全員がスマホを持っていますので、ネット回線さえ生きていれば早く家族の所在も分かります。普段は登録だけしてなかなか見直しをしませんので、この機会に再度見直しをしようとおもいます。

横浜北 YMCA は「帰宅困難者一時滞在施設」に指定されてます。これは、帰宅が可能になるまで待機する場所がない帰宅困難者を一時的に受け入れ、休憩場所のほか、可能な範囲でトイレ、水道水、情報の提供等を実施する施設です。多くの人々が帰れなくなってしまうときに、少しでも助けになればと考えています。

3月の定例会

第4水曜日 3月28日です。お間違えないように！

「東京防災」配りました。

このニュースでも取り上げた東京都が作り、全戸配布した防災ブック「東京防災」を会員の勉強用に全員分購入しました。

日常からどのような準備が必要なのか、発災時にはどう行動すれば安全か、避難生活での必要な知恵などが記載されている本です。

まずは皆様のご家庭で読み合ってみて下さい。参考になる部分を取り入れ、どれが実行できるかを定例会で検討して行きたいと思っはいます。



パーソファインダー画面

編集後記

☆常総市社協事務局長がまた港北区でお話して下さると言うことです。ますますおつきあいが深まっています。(宇田川)

☆地域防災拠点から出前災ボラのお声がかかるといいですね。(付岡)

☆「ある」事と「使える」事は違う。AEDもそうですね。「人」が「使うことができる」状態にあるのか。設置して終わる。それでは負の遺産となった公共施設のようです。使う事を考えましょう。(中島)